

環境パートナーシップ会議設立準備会報告書



みんなで築き 未来へつなげよう 環境都市 うつのみや

平成16年2月

環境パートナーシップ会議設立準備会

目 次

1．環境パートナーシップ会議設立準備会について

(1) 準備会設置の目的	1
(2) 準備会の役割	1
(3) 準備会の検討経過	1

2．環境パートナーシップ会議設立準備会の協議結果について

(1) (仮)うつのみや環境パートナーシップ会議の基本事項	2
設立の目的	2
主な役割	2
位置付け	2
(2) 協働の基本原則	2
(3) 事業内容	3
(4) 組織の構成及び所掌事務	4
(5) 運営資金	4
(6) 会則	5
(7) 今後の取り組み	8

3．環境パートナーシップ会議設立準備会委員

参考資料

1 協働の基本原則(案)について	10
2 設立当初から開始するワーキンググループ活動について	14
3 ワーキンググループ活動計画フォーム	19
4 ワークショップまとめ(役割,事業計画,運営方法,財源)	25

1. 環境パートナーシップ会議設立準備会について

(1) 準備会設置の目的

環境パートナーシップ会議設立準備会は、環境基本計画において位置付けられた「(仮称)うつのみや環境パートナーシップ会議」を平成16年6月に設立するために、市、市民、事業者それぞれの主体がその機能・得意分野の違いを生かして協働で相乗効果が得られる具体的な環境保全活動などを会議設立後速やかに実践するための組織運営上必要な事項についてとりまとめるもの

(2) 準備会の役割

準備会委員は、各主体(市、市民、事業者、学識者)の代表として、それぞれの立場から実践活動につながる意見や提言をし、下記の必要事項をとりまとめる。

- (仮)うつのみや環境パートナーシップ会議の基本事項
- (設立の目的, 主な役割, 位置づけ)
- 協働の基本原則
- 事業内容
- 組織の構成及び所掌事務
- 運営資金
- 今後の取り組み
- 会則

(3) 準備会の検討経過

第1回設立準備会(平成15年7月)

- ・環境パートナーシップ会議における協働のあり方等

ホームページにより準備会の協議内容を発信(平成15年8月~)

http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kankyo/pre_env-partner/index.htm

第2回設立準備会(平成15年9月)

- ・環境パートナーシップにおける協働の基本原則(案)等

第3回設立準備会(平成15年10月)

- ・設立当初から活動を開始するワーキンググループの活動方針及び活動計画等

第4回設立準備会(平成15年11月)

- ・ワーキンググループ活動の実施に係る各主体の役割分担等

第5回設立準備会(平成15年12月)

- ・環境パートナーシップ会議全体の役割, 事業計画及び運営方法等

第6回設立準備会(平成16年1月)

- ・環境パートナーシップ会議の会則(案)等

第7回設立準備会(平成16年2月)

- ・環境パートナーシップ会議設立準備会の報告書等

2. 環境パートナーシップ設立準備会協議結果について

(1) (仮) うつのみや環境パートナーシップ会議の基本事項

設立の目的

宇都宮市環境基本計画を推進するために、市民、事業者、市が、協働の基本原則に基づき、環境の保全と創造に向けて取り組むことにより、良好な地域環境の確保と地球環境保全に貢献し、以って「環境都市うつのみや」の実現に寄与することを目的とする。

主な役割

環境基本計画に掲げた環境面のまちづくりに関する基本目標の実現のための協議及び活動を実践する場として次の役割を担う。

- (ア) 市民、事業者、市の各主体が対等な立場で協力及び連携しながら具体的な環境保全活動を実践する。
- (イ) 環境問題への正しい理解と知識を深め、環境保全のために行動する人の環を市域全体へ広げ、活性化を図る。
- (ウ) 会議の取組や環境に関する情報などの積極的な発信と交流を進める。

位置づけ

環境基本計画における「市民、事業者、市の協働による推進体制の整備」として位置付ける。また、計画のリーディングプロジェクト（環境パートナーシップ推進プロジェクト）における市民協働事業の推進の具体化を図るものである。

(2) 協働の基本原則

本会を運営するにあたっての共通のルールとなる協働の基本原則を定める。

1 (対等, 平等, 公平な関係の構築)

市民・事業者と行政のそれぞれが、環境保全活動の主体となり、「対等な関係」で、協力しながら取り組む。

2 (尊敬, 信頼, 協力, 友情に基づく行動)

「地球で暮らす一員」として、お互いの尊敬、信頼、協力、友情のもとに、同じ気持ちになって取り組む。

3 (情報の共有・公開・発信・提供)

お互いに良く知り合い、建設的な議論のためにも、情報の共有化を図る。

4 (適正な役割分担と責務遂行)

環境保全活動の企画立案、実施、評価、改善というすべての過程において各主体が参画し、明確な役割分担の基に活動を実施する。

5 (自主性・創造性の発揮と尊重)

それぞれの立場を最大限に発揮できるよう自主性・創造性を尊重する。

6 (費用負担の明確化)

活動の性質に応じた費用負担の明確化を図る。

(3) 事業内容

本会の事業は、全体活動とテーマに応じた環境保全活動を実践するワーキンググループ活動に区分し実施する。

全体活動

- ・ 総会の開催
- ・ 環境フェアへの参画
- ・ 市の作成した環境状況報告書に対する意見
- ・ 会報紙の発行
- ・ 事業報告書の作成

ワーキンググループ活動

計画に掲げた基本目標を達成するためのテーマに基づく具体的な環境保全活動の実践

平成16年度の主な事業

<全体活動>

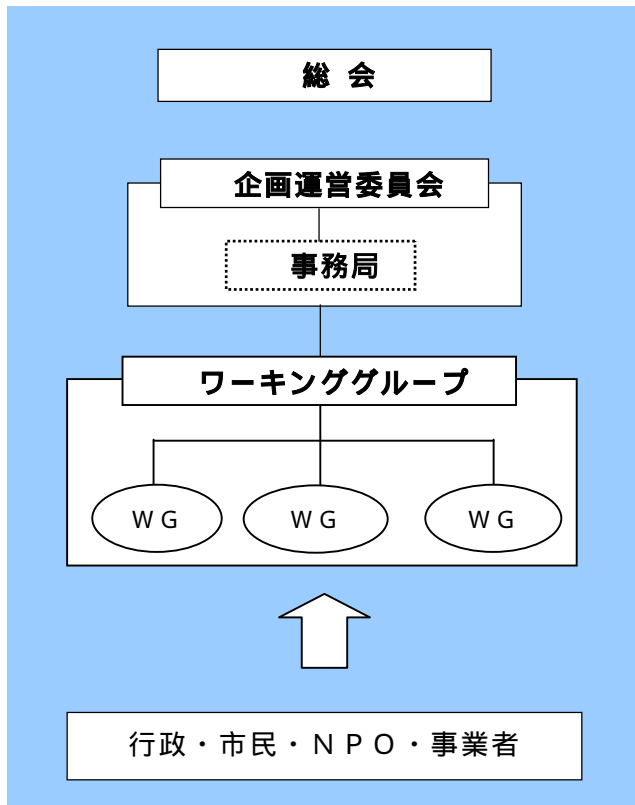
活動名	設立総会	環境フェアへの参画
時期	平成16年6月	平成16年10月
概要	本会の設立の趣旨、会員拡大等組織基盤の強化、協働による事業の推進などを広くPRすることを目的として設立総会を開催する。	環境問題に対する理解を深め、問題解決に向け積極的に取り組んでもらうことを目的とした、参加・体験型の環境フェアへ参画する。

<ワーキンググループ活動>

	環境情報交流	環境学習促進	エコモデルショップ
方針	ITを活用した市民・事業者参加型プロジェクトの推進	郷土の環境を愛し、次世代へとつなげる環境教育・環境学習の推進	「環境保全活動に積極的に取り組むまち」の実現
概要	環境活動の情報中心点の役割を果たす仕組みとして、環境Uネットを中心に環境情報の積極的な発信と交流を進める。	環境学習に関する様々な枠組み(体験的に学ぶ、子ども向け、生活系と自然系など)を作り、「うつのみや」らしい環境学習を展開する。	市中心部に誰もが気軽に立ち寄れる環境保全に関する交流の場を設置するために、基本的なあり方について企画・研究する。
な 具 体 的 な 取 組	環境Uネット構築ニーズ調査 人材・情報の収集 システムの設計、試行、評価 システム稼働開始	環境学習センターを拠点とした体験学習の機会の確保 幼児向け環境絵本の作成 マイバックコンテスト 里山体験学習	エコモデルショップの設置に係るニーズ調査 具体化に向けた検討 モデルショップ実験 企画案の作成
スケジュール	7月 システム設計 10月 環境情報交流システム稼働 11月 管理・運営グループの形成PR活動 3月 システムの見直し	7月 環境絵本講座の開催 里山活動の実践 9月 マイバックコンテストの開催 12月 読み聞かせ会の開催 3月 報告会の開催	7月 講演会の開催 (環境にやさしい製品) 9月 ワークショップ (具体化検討) 11月 エコモデルショップ実験 3月 エコモデルショップ企画案の作成

(4) 組織の構成及び所掌事務

事業を展開するにあたり，敏速に対応が可能な機動性の高い組織構成とする。



総会

- ・ 予算，決算の審議・決定
- ・ 会則の改正
- ・ 事業の総括 等

企画運営委員会

- ・ 総会（議案）の作成
- ・ 事業の立案
- ・ 事業の評価，見直し
- ・ 事業報告書の作成
- ・ 市の作成した環境状況報告書への意見
- ・ 会報紙の発行

事務局

- ・ 庶務
- ・ 会計
- ・ 各主体間の連絡調整 等

ワーキンググループ

- ・ 活動計画（案）の作成
- ・ 環境保全活動の実践
- ・ 活動結果の報告 等

(5) 運営資金

本会の運営等に係る資金は，市補助金，会費，賛助金及び寄付金などで賄い，自主運営を目指すこととする。

(仮) うつのみや環境パートナーシップ会議 会則 (案)

(名 称)

第1条 この会の名称は、うつのみや環境パートナーシップ会議(以下「**本会**」という。)とする。

(目 的)

第2条 本会は、宇都宮市環境基本計画を推進するために、市民、事業者、市が、協働の基本原則(別表)に基づき、環境の保全と創造に向けて取り組むことにより、良好な地域環境の確保と地球環境保全に貢献し、以って「**環境都市うつのみや**」の実現に寄与することを目的とする。

(役 割)

第3条 本会は、環境基本計画に掲げた環境面のまちづくりに関する基本目標の実現のための協議及び事業を実践する場として次の役割を担う。

- (1) 市民、事業者、市の各主体が対等な立場で連携・協力しながら環境保全活動を実践する。
- (2) 環境問題への正しい理解と知識を深め、環境保全のために行動する人の環を市域全体へ広げ、活性化を図る。
- (3) 本会の取組や環境に関する情報などの積極的な発信と交流を進める。
- (4) その他、環境基本計画の推進に関すること。

(事 業)

第4条 第2条並びに第3条の目的及び役割を遂行するために、本会は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 各主体の相互交流を図るための情報把握、情報交換、情報提供
- (2) 各主体をつなぐ多様な環境学習の場と機会の創出
- (3) テーマに応じた環境保全活動の企画・実践
- (4) その他、第2条並びに第3条の目的及び役割を遂行するために必要な活動

(会 員)

第5条 本会の目的に賛同し、環境に興味・関心がある市民、事業者や市民団体などからなる会員をもって構成する。

(入 会)

第6条 本会の会員になろうとするものは、入会申込書を会長に提出するものとする。

(会 費)

第7条 会員は、1口につき次の各号に掲げる区分に応じた年額会費を納入しなければならない。なお、会員が既に納入した会費は、これを返還しない。

- (1) 市 民(1口) 2,000円
- (2) 団 体(1口) 5,000円

(退会)

第8条 会員の退会については、別に定める。

(役員)

第9条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1 名
 - (2) 副 会 長 若干名
 - (3) 企画運営委員 20～30名程度
 - (4) 会 計 委 員 1 名
 - (5) 事 務 局 長 1 名
 - (6) 会 計 監 事 2 名
- 2 役員は、会員のうちから総会において選任する。ただし、総会が開催されるまでの間に企画運営委員を増員する必要がある場合は、企画運営委員会で選任することができる。この場合においては、直後の総会で承認を受けなければならない。
- 3 会長は、本会を代表するとともに、会務を統括する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時又は会長が不在のときは、その職務を代理する。
- 5 企画運営委員は、企画運営委員会の会務を執行する。
- 6 会計委員は、本会の会計を管理する。
- 7 事務局長は、本会の事務を統括する。
- 8 会計監事は、本会の会計を監査する。
- 9 役員の任期は2年とする。但し、再任を妨げない。

(顧問)

第10条 本会に顧問若干名を置くことができる。

(総会)

第11条 総会は、年1回開催し、必要に応じて臨時に開催する。

- 2 総会は、会長が召集する。
- 3 総会は、会長が召集し、議長は副会長が行う。
- 4 総会は、出席会員をもって成立するものとする。
- 5 総会の議事は、出席会員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 総会は、次の事項を審議、決定する。
 - (1) 予算、決算
 - (2) 事業計画、事業報告
 - (3) 役員を選任
 - (4) 会則の改正
 - (5) その他本会の運営における基本的事項

(企画運営委員会)

第12条 企画運営委員会は、会長、副会長、企画運営委員、会計委員、事務局長、会計監事で構成する。

2 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 総会議案
- (2) 事業の評価、見直し
- (3) 市の作成した環境状況報告書への意見
- (4) その他必要な事項

3 企画運営委員会は、会長が召集する。

4 会長は、企画運営委員会の会務を総理し、企画運営委員会の議長となる。

5 企画運営委員会の議事は、出席会員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 会長は、必要がある場合は、企画運営委員会に構成員以外の者をオブザーバーとして出席させることができる。

(ワーキンググループ等)

第13条 第4条第3号に掲げた環境保全活動を推進するために、企画運営委員会の下にワーキンググループ等を設置する。

2 ワーキンググループ等は、希望する会員で構成する。

3 ワーキンググループ等にはリーダーを置き、リーダーはワーキングチーム等を代表し、会務を統括する。

4 ワーキンググループ等は、次の事項を企画運営委員会に報告する。

- (1) 活動計画(案)
- (2) 活動状況及び活動報告
- (3) その他必要な事項

(事務局)

第14条 本会の事務局は、企画運営委員会内に置き、庶務及び会計事務を処理する。

(会計及び会計年度)

第15条 本会の運営に要する経費は、会費、賛助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

2 本会の会計年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

(委任)

第16条 この会則に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

附 則

1 この会則は、設立の日(平成16年6月5日)から施行する。

2 第5条第1項の市民は、宇都宮市で働く者、学ぶ者及び訪れる者を対象とする。

3 本会の設立前に、環境パートナーシップ会議設立準備会事務局に提出された入会申込書は、第6条の規程にかかわらず、同条の入会申込書とみなす。

4 本会の設立当初の役員は、第9条第2項の規定にかかわらず、環境パートナーシップ会議設立準備会において推薦され、設立総会において承認された者とする。

5 本会の設立当初における役員の任期は、第9条第9項の規定にかかわらず、平成16年4月1日から起算するものとする。

6 本会の設立当初の総会は、第11条第2項の規定にかかわらず、環境パートナーシップ会議設立準備会事務局が召集するものとする。

7 本会の設立当初の会計年度は、第15条第2項にかかわらず設立の日に始まる。

(別表) 環境パートナーシップ会議の協働の基本原則

1 「対等，平等，公平な関係の構築」

市民，事業者と行政のそれぞれが，環境保全活動の主体となり，「対等な関係」で，協力しながら取り組む。

2 「尊敬，信頼，協力，友情に基づく行動」

「地球で暮らす一員」として，お互いの尊敬，信頼，協力，友情のもとに，同じ気持ちになって取り組む。

3 「情報の共有・公開・発信・提供」

お互いに良く知り合い，建設的な議論のためにも，情報の共有化を図る。

4 「適正な役割分担と責務遂行」

環境保全活動の企画立案，実施，評価，改善というすべての過程において各主体が参画し，明確な役割分担に活動を実施する。

5 「自主性・創造性の発揮と尊重」

それぞれの立場を最大限に発揮できるよう自主性・創造性を尊重する。

6 「費用負担の明確化」

活動の性質に応じた費用負担の明確化を図る。

(7) 今後の取り組み

- 3月～ (仮)うつのみや環境パートナーシップ会議設立に向けた事務打ち合わせ会の開催
- 4月～ 広報紙等により会員募集
事業内容の詳細について検討
- 5月 設立総会に向けての準備
事業計画
予算書
役員
会議の名称
会則
- 6月～ 設立総会の開催(6月5日)
事業の実施

環境パートナーシップ会議設立準備会委員

委員長	三宅 徹治
副委員長	陣内 雄次
委員	青木 章彦
同	荒木 廣治
同	大野 邦雄
同	神宮 由美子
同	仁平 隆史
同	藤原 宏史
同	御子貝 荒江
同	森本 久子
同	山形 雅美
幹事	大谷津 孟
同	高橋 悟

参 考 资 料

協働の基本原則（案）について

市民・事業者と行政のそれぞれが、環境保全活動の主体となり、「対等な関係」で、協力しながら取り組んでいくことが重要である。

* 環境パートナーシップ会議での活動内容を企画・立案（plan）する段階での対等関係

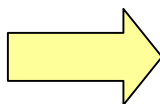
* 活動を実施（do）する際の対等関係

* 活動内容に対する評価（check，action）を行う際の対等関係【大谷津】

対等・平等・公平【大野】



キーワード
対等，平等，公平



基本原則 1
対等，平等，公平な関係の構築

協働に必要なものは第一にお互いの尊敬，第二に信頼，第三に協力，第四に友情（愛）である。【森本】

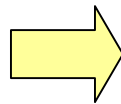
それぞれの主体は異なる「文化」を持っている。したがって，互いに理解しあうという努力が必要。【陣内】

市民，事業者，行政それぞれの立場は違っても，その立場である前に「地球で暮らす一員」ということで，同じ気持ちになって取り組んでいくことが重要である。【山形】

信頼関係の醸成【大野】



キーワード
尊敬，信頼，協力，
友情（愛），互いに理
解しあう，同じ気持
ちになって取り組ん
でいく



基本原則 2
尊敬，信頼，協力，友情に基づく行動

市民との協働のためには、環境保全に関心のある市民に活動の場を提供すること、そして関心の無い市民に関心を持ってもらうための動機づけが必要である。

そのためには**効果的なPR**と「参加してみたいくなる」魅力ある活動内容が欠かせない。

【荒木】

目指すべき方向を合わせる。

お互いに良く知り合い、**情報を共有化**する。【三宅】

建設的な議論のためにも、**情報の共有化**が重要。【陣内】

それぞれの立場で意見を出し合い、他県の実例なども参考にし、現場とかけ離れない位置で協議されていくことを希望する。【御子貝】

行政や事業者は、その活動内容を積極的に公表するなど**情報提供**を充実し、透明性の高い施策・事業の実施に努めるとともに、その成果を客観的な数値として**公開**する。

また、一方的な情報提供ばかりでなく、コミュニケーションを通じて、お互いを理解していくため、意見交換や情報交換を積極的に行なっていく。

* 活動を行うために必要となる**情報の共有**

* 現在進行している活動に関する**情報の共有**

* これからやろうとしている活動に関する**情報の共有**【大谷津】

パートナーシップ会議の環を宇都宮市全体に広げていくことが大切である。

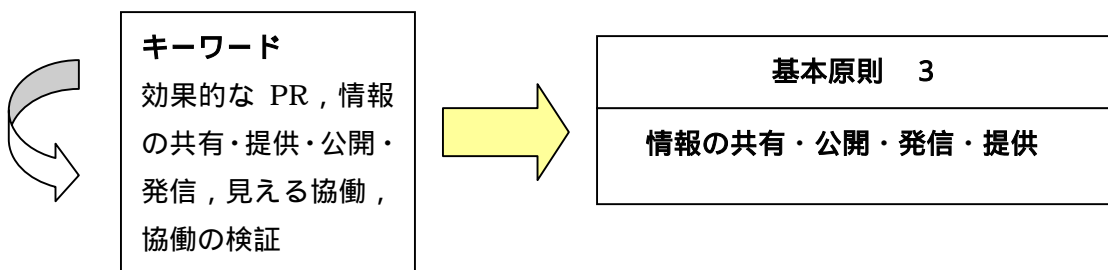
そのためには、この会議を市民の目に触れる形で展開する必要がある。

「**見える協働**」と「**協働の検証**」を示していくべきである。【青木】

お互いがメンバーの一人一人のそれまでの業績に敬意を表するとともに、個々の持っている魅力や情報を引き出すことも、有効な施策を生み出す上で必要な要件である。

大事なことは、何事も出来ないことはない。他でやったことがないからと諦めるのではなく、何故出来ないかを探ってみる勇気と英断が必要である。そのためにも**情報の共有化**が不可欠である。【森本】

情報の共有・公開・発信・提供【大野】



それぞれの主体の得意とするところをのばし、**不得手なところを補い合う**という関係性が重要(=**適正な役割分担と責務**)【陣内】

それぞれが特徴を活かし、**参画**できる場面で参加する。【三宅】

市民も行政も事業者もそれぞれの立場でやるべき事はきちんとすること。【神宮】

環境パートナーシップ会議においては、行政が立案し、市民・事業者が参加、協力するという、これまでの有りがちなパターンではない、新しい「**役割分担**」によって活動が行われるべきである。具体的には、事業の立案、実施、評価、改善というすべての過程において市民・事業者が「**参画**」することが「協働」であり、環境パートナーシップ会議のあるべき姿であると考えている。【高橋】

会議は「環境基本計画を実現するため、市・事業者・市民が連携・協力しながら、具体的な環境保全活動として取り組んで行く母体組織」であり、協働を象徴する「合意し・行動を連携する組織」と考える。行動するメンバーを得るには、具体的に何をやる会議なのか、**役割を明確に伝える**必要がある。

たとえば次の3つの役割(案)が考えられる。

ア) 環境行動を啓蒙普及する役割(市施策・イベントへの参加)

環境教育の出前・環境フェアの開催・市版ISOの認定等の啓蒙普及への参加を合意し、実行ワーキングを形成、協力等できる役割を分担連携する。

イ) 環境を改善する協働事業を推進する役割(プロジェクト事業の推進)

ゴミコンポスト化と有機農業利用・モデル地域の生き物再生等環境保全事業を企画し、参画者が役割分担するプロジェクト事業化を展開する。

ウ) 環境情報を交流する役割(行動ノウハウの交流)

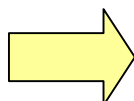
環境情報や改善技術を持つメンバーが、テーマ別の発表・ワークショップを開催(会議は共催)し、関係者・市民とのノウハウ交流を拡大する。

【仁平】



キーワード

不得手なところを補い合う、適正な役割分担と責務、参画、役割分担を明確に伝える



基本原則 4

適正な役割分担と責務遂行

環境を考えると、**真実を探求する事**に通じる。何が正しく何が価値があるのか、そう問い掛けることから始めねばならない。そしてそれを原点として、**今自分で考えられることから始めよう**とすることである。【藤原】

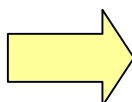
協働していく上で、**それぞれの立場を最大限に活用**して、市民のたくさんの人に、興味をもってもらえるような取り組みを広めて行ければと考えている。【山形】

自主性・創造性の発揮と尊重【大野】



キーワード

真実を探求する事、
今自分で考えられる
ことから始めようと
すること、それぞれ
の立場を最大限に活
用、自主性・創造性
の発揮と尊重



基本原則 5

自主性・創造性の発揮と尊重

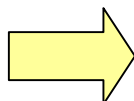
会議運営の費用負担も協働のテーマである。

- ・ **構成員・ボランティア参加は原則無償**（実費支弁）
- ・ **啓蒙普及(市施策・イベントへの参加)及びノウハウ交流は主催者負担**《環境情報や改善技術を持つメンバーが、テーマ別の発表・ワークショップを開催（会議は共催）し、関係者・市民とのノウハウ交流を拡大する。（期間限定助成）》
- ・ プロジェクト化（ゴミコンポスト化と有機農業利用・モデル地域の生き物再生等環境保全事業を企画し、参画者が役割分担するプロジェクト事業化に展開する。）は事業費用を得る協働の仕組みが必要である。【仁平】



キーワード

構成員・ボランティ
ア参加は原則無償、
啓蒙普及・ノウハウ
交流は主催者負担



基本原則 6

費用負担の明確化

設立当初から開始するワーキンググループ活動について

1. アンケート調査の趣旨

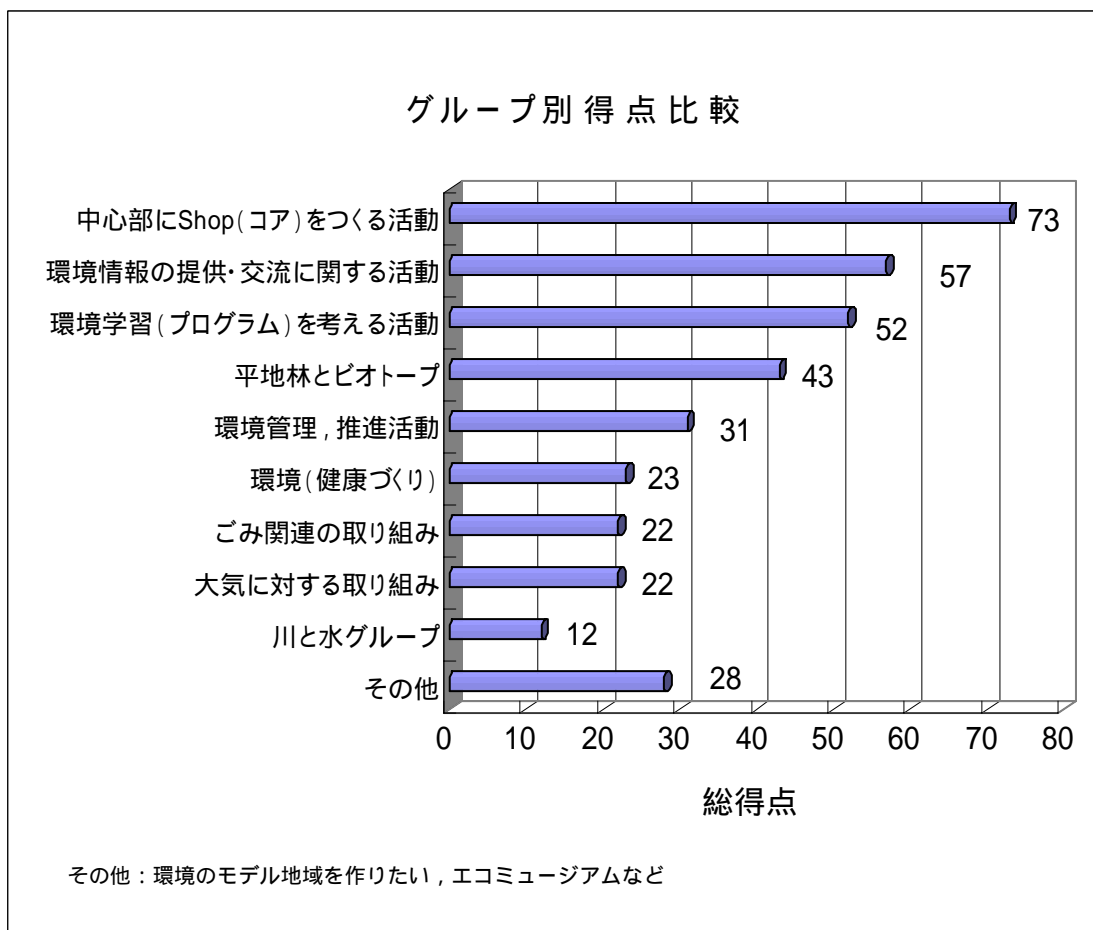
平成16年6月に設立する(仮)環境パートナーシップ会議のワーキンググループにおいて実施する活動内容をより具体化するための協議の参考とするため

2. グループ別得点結果について

第2回設立準備会で、9つのグループとその他に分類した。

全ての活動を設立当初から開始することは、現実的に困難であり、委員全員へのアンケート結果に基づき順位付けを行い、核となる活動を絞り込むことで、今後の協議及び中身の濃い充実した活動の展開へ繋がるものと考え実施した。

その結果を下記に示す。



3. グループ別提案リスト

中心部に Shop(コア)をつくる活動

活 動 名
<p>中心地でのエコロジーショップ&U ブランド構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコショップが環境情報発信基地となる ・ショップスタッフ(環境リーダー) = 情報発信者 ・自然エネルギーのショップへの導入 <p>(風力発電, バイオガス, ソーラー 地域のエネルギーは地元で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコショップやLRTの利用特典としてのエコマネーの導入 <p>中心街に環境政策スクールの開校 (or エコステーション)</p> <p>旧市街地の活性化 エコロジーシティのベースを</p> <p>(例えば, LRT, ショップ)</p> <p>マイバック運動・過剰包装廃止運動を推進する(省資源)</p> <p>学生によるエココミレストランの立ち上げ運営</p> <p>スローフード運動を進めたい</p> <p>都市化された街を元のかたちに戻し「理想的な街」にする</p>

環境情報の提供・交流に関する活動

活 動 名
<p>ホームページを利用した環境Uネットにより情報提供を行う</p> <p>住民やメーカーなど事業者へごみ処理の現状の情報を発信しわかり易く的確に伝える</p> <p>環境対策を分かり易く伝えたい, 知りたい</p> <p>環境に関する情報を提供する</p> <p>環境報告書(年報づくり)</p> <p>市内大気汚染マップのリアルタイム表示をする(大気)</p> <p>環境フェアの開催</p> <p>この会議のポータルサイトをつくる</p> <p>環境情報を交流する</p>

環境学習(プログラム)を考える活動

活 動 名
環境学習センターの機能充実を図る
自然環境についての情報に詳しい人と連携する
環境リーダーの育成と登録を行う(環境教育)
環境活動支援 NPO をつくる
環境教育カリキュラム(宇都宮市版)の検討+実行
環境学習センターのモデル活動
環境学習を実践できるリーダーを育成する
効果的な環境学習プログラムを作成する
環境教育の出前

平地林とビオトープ

活 動 名
里山,樹林地の管理整備をする市民運動を展開する(自然環境)
田,畑,平地林の混在する環境を保全する
平地林の活用法を考える(資源として,憩いの場として,CO2吸収)
植林する木を選ぶ(平地林が少なくなり四季折々の楽しみがなくなってさみしい)
学校のプールで育ったヤゴをトンボに育てる活動をする
生き物が棲める農業地域を再生する
市民参加の「宮環花いっぱい運動」を展開する(身近な自然)
緑の回廊(緑の飛び石?)を実現する
ビオトープ(ビオトープネットワーク)の整備(保全)
モデル地域の生き物再生等環境保全事業
町の緑化のため,個人や団体で,育て増やした植物の苗を無料配布したり交換したりする場をつくる
各家庭での緑を増やす運動を推進する(地球環境)

環境管理, 推進活動

活 動 名
(仮称)事業所版環境ISOを創設, 普及・促進する
家庭版環境ISOを普及・促進する
環境家計簿キャンペーンを広めたい
学校版環境ISOを普及・促進する
市版環境ISOの認定
環境にやさしい優良企業を表彰する

環境 健康づくり

活 動 名
子ども達の健康対策
・ 学校教育委員会への働きかけ
紫外線対策 塩素プール 有機農法の給食
・ 公園・学校での農薬の廃止
・ 化学物質の軽減
・ 電磁波対策
環境にやさしい学校等の実現(エコスクール?)
受動喫煙対策運動を起こしたい

ごみ関連の取り組み

活 動 名
ごみの減量対策(エコショップでの販売方法)生ゴミの堆肥化
廃棄物発生量の地区別管理を行う(廃棄物)
生ごみの再利用と循環を実現する
生ごみコンポスト化と有機農業利用
高速道路の側道周辺がゴミの道になっている

大気に対する取り組み

活 動 名
パーク&ライドを実現したい アイドリングストップ運動を高めたい 太陽光発電,低公害車などの新エネルギーの導入推進を図る 大気汚染対策を進めたい 「自転車で移動しよう!」というキャンペーンを行う 雑草・枝を焼却することで消毒をすることもある 駐車場(スーパーなど)を有料化する 「アイドリング・ストップ」キャンペーンをショッピングセンターの駐車場で行う

川と水グループ

活 動 名
宇都宮市のうまい水に誇りをもつ運動をする(水環境) 水と親しめる川づくりを推進する(自然の公益的機能) 水系〔田川,釜川,etc〕ごとに流域探検をしたい 家庭における節水教育を推進する(水資源)

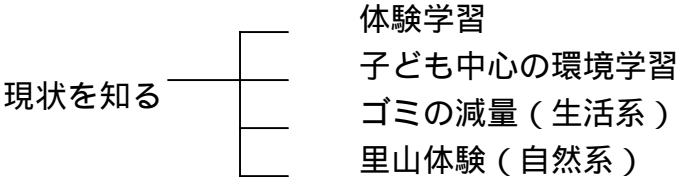

そ の 他

活 動 名
環境のモデル地域を作りたい 体験型の野外学習の事業を実施する 「自然とのふれあい体験」の機会を増やす 車を使わないで暮らせるモデル街区の整備 環境共生型の住宅づくり エコミュージアム エコカーによるカーシェアリングの実施 グリーンツーリズム エコツアー タウンウォッチング

ワーキンググループ名称	環境情報交流グループ		
活動計画フォーム作成リーダー	三宅 徹治		
環境項目（環境基本計画）	環境教育・環境学習（情報）		
環境目標（環境基本計画）	市民一人ひとりが環境を大切に作る人づくりを進めます		
活動の方針・目的			
<p>環境活動の情報中心点の役割を果たす仕組みをつくる。</p> <p>具体的には、Uネットを中心に環境情報の積極的な発信と交流を進めることとし、既存の情報媒体を活用することで、省資源な手法を考慮する。</p> <p>そしてその目的は、次の3点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性ある地域づくり ・環境を大切に作る人づくり ・活動の環を広げる 			
活動内容（ ¹ の内容を箇条書きにして簡潔に記入）			
ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マップ（活動している人・グループ） ・出前講座の先生を探す ・どんな環境測定データが欲しいか ・地産地消情報 ・環境優良企業の情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動グループ・個人 ・システムづくりのボランティアを募集 	<ul style="list-style-type: none"> ・Uネットの高機能化 ・市政だよりにコーナーをつくる
人集め・情報集め			
仕組づくり			
年間計画	いつ	何をするのか ¹	誰に呼びかけるか
	5月	ニーズ調査会議 基本計画書を作成する。	アンケートで市民の声を聞く、既存アンケートの再整理
	6月	人を集める Uネット推進プロジェクトのスタート	公募、HP広告、市政だよりの活用
	7～8月	仕組づくり（システム設計） <u>実行計画書作成（全国環境情報のネットをはる）</u>	コンペ、青年会議所
	9月	<u>試行、評価</u>	市民、有識者の評価をもらう
10月	<u>稼働開始（Uネット、市政だよりコーナー）</u> 市政だよりコーナー名「環境情報交流店（点）」を新設し、ホットなニュースをのせる。	市政だより、マスコミで宣伝	

費用			
経費名	負担主体	内 訳	金 額
報償金	市 民 事 業 者 行 政	環境情報ニーズ把握のためのWSの開催	
報償金		環境Uネット構築に係るWSの開催	
通信運搬費		Uネット稼動に係る通信運搬費	
消耗品費		環境情報ニーズ把握のためのWS等消耗品	
消耗品費		Uネットシステム設計WS等消耗品	
食糧費		WG活動に伴う茶菓子代	
計			
各主体の係わり方（金銭・資材・人・知識等）			
市 民	<ul style="list-style-type: none"> ・会費の負担 ・ニーズ調査に係る知識・知恵の提供 ・<u>システム開発に係る人材，知識・知恵，資材の提供</u> ・Uネットへの参加と運用に係る人材等の提供 ・システム試行，評価に係るアンケート調査等への参加 		
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・会費の負担 ・ニーズ調査に係る知識・知恵の提供 ・<u>システム開発に係る人材，資材の提供，事業所情報提供</u> ・Uネットへの参加と運用に係る人材等の提供 ・システム試行，評価に係るアンケート調査等への参加 		
行 政	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の負担 ・ニーズ調査に係る既存情報，知識・知恵の提供 ・Uネット推進プロジェクトへの広報紙，市HPによる参画呼びかけ ・<u>システム開発に係る行政情報の提供</u> ・Uネットの運用に係る費用負担と知識・知恵，<u>資材の提供</u> ・ニーズ調査会議，ワークショップ等における会場確保 		
W G	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ把握のためのアンケート調査（既存資料の整理），先進事例調査の実施 ・ニーズ把握，システム開発のためのWS企画運営，基本・実行計画書作成 ・Uネット推進プロジェクトへの参画呼びかけ ・稼動開始に係るPR活動 栃木TV，新聞等 ・システム試行，評価に係るアンケート調査等の分析，システムの見直し ・<u>年間活動報告書の作成</u> 		

ワーキンググループ活動計画フォーム

ワーキンググループ名称	環境学習促進グループ			
活動計画フォーム作成リーダー	青木 章彦			
環境項目（環境基本計画）	環境教育・環境学習			
環境目標（環境基本計画）	市民一人ひとりが環境を大切に作る人づくりを進めます			
活動の方針・目的				
<ol style="list-style-type: none"> 1．環境について体験的に学べる枠組みを作る。 2．次世代を担う子どもたち向けの環境学習の枠組みを作る。 3．生活系と自然系の環境学習の枠組みを作る。 4．市民が参加できる枠組みを作る。 5．P D C Aの枠組みを作る。 6．上記の枠組みを活用して、「うつのみや」らしい環境学習を展開する。 				
活動内容（ ¹ の内容を箇条書きにして簡潔に記入）				
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: left;"> <p>現状を知る</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: right;"> <p>成果発表</p> </div> </div>				
年間計画	いつ	何をするのか ¹		誰に呼びかけるか
	年度内	調査，結果を知らせる		環境学習センター （ボランティア） 幼教，環境に詳しい人，お母さん，絵かき， COOP，スーパー 宇大，森林組合，地主 県林務部
	5月～	体験学習の拠点をつくる		
	5月～	子ども向けの環境の絵本をつくる		
	5月～	マイバックコンテスト		
	5月～	モデル活動場所を決める・見せる		
8月・2月	成果の発表をする			

費用			
経費名	負担主体	内 訳	金 額
報償金	市 民 事 業 者 行 政	環境絵本読み聞かせ会講師謝金	
報償金		マイバックコンテスト	
旅費		環境学習に係る先進地調査（東京 日帰り）	
消耗品費		環境学習の現状調査等に係る消耗品	
消耗品費		環境絵本作りに係る消耗品	
消耗品費		マイバックコンテストに係る消耗品	
消耗品費		里山体験教室に係る消耗品	
食糧費		WG 活動に伴う茶菓子代	
計			
各主体の係わり方（金銭・資材・人・知識 等）			
市 民	<ul style="list-style-type: none"> ・会費の負担 ・体験学習拠点づくりに係る知識・知恵及び人材の提供 ・<u>里山体験教室</u>，<u>環境絵本作り及びマイバックコンテストへの参加</u> ・成果発表会への参加 		
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・会費の負担 ・体験学習拠点づくりに係る知識・知恵，人材及び資材の提供 ・<u>里山体験教室</u>，<u>環境絵本作り及びマイバックコンテストへの参加</u> ・成果発表会への参加 		
行 政	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の負担 ・体験学習拠点づくりに係る行政情報の提供 ・<u>里山体験教室</u>，<u>環境絵本作り及びマイバックコンテストの広報紙</u>，市 HP による参加呼びかけ ・成果発表会への参加 		
W G	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習拠点づくりに係るレポート作成 ・<u>里山体験教室</u>，<u>環境絵本作り及びマイバックコンテストの企画運営</u> ・Uネット推進プロジェクトへの参画呼びかけ ・<u>成果発表会の企画運営</u> ・<u>年間活動報告書の作成</u> 		

ワーキンググループ活動計画フォーム（ ）

ワーキンググループ名称	E(エコ)モデルショッププロジェクト						
活動計画フォーム作成リーダー	森本 久子						
環境項目（環境基本計画）	環境保全活動						
環境目標（環境基本計画）	市民の協働により、より良い環境を創出する活動の環を広げます						
活動の方針・目的							
<p>市中心部に環境保全活動の場として、E(エコ)モデルショップを設置するために、基本的なあり方（下記事項）について企画・研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．環境に興味・関心がある子供から大人までの誰もが、気軽に立ち寄れる場 2．魅力があり、継続的に人を集めることが可能な場 3．環境に関する情報交換や勉強会などができる交流の場 							
活動内容（ ¹ の内容を箇条書きにして簡潔に記入）							
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: middle;"> Eモデルショップ検討会 講演会 ワークショップ Eモデルショップ実験 見学会 </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">}</td> <td style="width: 40%; vertical-align: middle;"> Eモデルショップ企画(案) <ul style="list-style-type: none"> ・u-ブランド・知-フード加工 ・スクール・ギャラリー ・その他 </td> <td style="width: 20%; vertical-align: middle;">} の展開について</td> </tr> </table>				Eモデルショップ検討会 講演会 ワークショップ Eモデルショップ実験 見学会	}	Eモデルショップ企画(案) <ul style="list-style-type: none"> ・u-ブランド・知-フード加工 ・スクール・ギャラリー ・その他 	} の展開について
Eモデルショップ検討会 講演会 ワークショップ Eモデルショップ実験 見学会	}	Eモデルショップ企画(案) <ul style="list-style-type: none"> ・u-ブランド・知-フード加工 ・スクール・ギャラリー ・その他 	} の展開について				
年 間 計 画	いつ	何をするのか ¹		誰に呼びかけるか			
	4月～	Eモデルショップ検討会の設置，運営 （中身づくりのための検討を開始）		市民、宇都宮大学コミュニティ・ネットワーク研究会			
	6月	講演会の開催 （環境にやさしい製品等）		市民、事業者			
	8月	ワークショップ （Eモデルショップニーズ把握について）		市民、事業者			
	11月	ワークショップ （Eモデルショップの具体化について）		市民、事業者			
	12月	Eモデルショップ実験		宇都宮大学コミュニティ・ネットワーク研究会			
	2月	見学会 （先進地見学）		ワーキンググループ			
	3月	Eモデルショップ企画(案)の作成		ワーキンググループ			

費用			
経費名	負担主体	内 訳	金 額
報償金	市 民 事 業 者 行 政	Eモデルショップ検討会に係る講師謝金	
消耗品費		Eモデルショップ検討会に係る消耗品	
報償金		環境にやさしい製品等に係る講演会講師謝金	
消耗品費		ニーズ把握等のワークショップに係る消耗品	
消耗品費		Eモデルショップ実験に係る消耗品	
普通旅費		Eモデルショップ企画研究のための先進地視察 湯布院町	
合 計			
各主体の係わり方（金銭・資材・人・知識等）			
市 民	<ul style="list-style-type: none"> ・会費の負担 ・Eモデルショップに係る市民アンケート調査への協力 ・講演会，ワークショップへの参加 ・Eモデルショップ実験への参加 ・Eモデルショップ企画(案)への市民意見の送付等 		
事 業 者	<ul style="list-style-type: none"> ・会費の負担 ・Eモデルショップに係る事業者アンケート調査への協力 ・講演会，ワークショップへの参加 ・Eモデルショップ実験への参加，資材の提供等の協力 ・Eモデルショップ企画(案)への事業者意見の送付等 		
行 政	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の負担 ・検討会，ワークショップ等の会場確保 		
W G	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・事業者アンケート調査の実施，集計・評価 ・検討会，講演会，ワークショップの企画運営 ・Eモデルショップ実験全般に係る企画運営 ・Eモデルショップに係るアンケート調査の集計・評価 ・先進地調査，視察及び調査結果まとめ ・Eモデルショップ企画(案)の作成 ・<u>年間活動報告書の作成</u> 		

会議全体の役割

市民，事業者，市の各主体が対等な立場で協力及び連携しながら，具体的な環境保全活動を実践します。

環境問題への正しい理解と知識を深め，環境保全のために行動する人の輪を市域全体へ広げ，活性化を図ります。

本会の取り組みや環境に関する情報などの積極的な発信と交流を進めます。

<疑問>
環境の部署
だけで対応
できないこと
がある

→ ターゲットが不明確

環境保全活動や
市の施策について協力する

パートナーシップ会議
参加者が
(市民，行政，事業者)

環境分野に
とどまらない

環境基本計画を推進する
の推進役を担う

4つの環境基本目標について
幅広く議論できる，全体を議論する

協議する場である

責任を担う
ことになる

市は横断的
組織をつくる

庁内現在進行形
24課の担当
委員会
H15.7月～

事業計画

設立総会を開催します。

市が作成した年次報告書に対して、意見を述べます
ワーキンググループごとに策定した活動計画に基づき活動を行います。

新規参加者を呼びかけます。

会員数が必要
(1万人目指す)

推進する人を広く募集

宣伝する・集める(呼びかける)

HP, 環境フェア

環境リーダー養成のための講座
もしくはネットワーク化
自治会などに呼びかける

パートナーシップ会議から投げかけること
WGを市民から提案を受ける準備する
環境活動に関する相談窓口

(市民からの
相談など)

Uネット(HPの中で相談)

エコショップ

予算が
いる

全体でやるか
WGで手作りやるか

有料で
やっては?

活動の
種まき

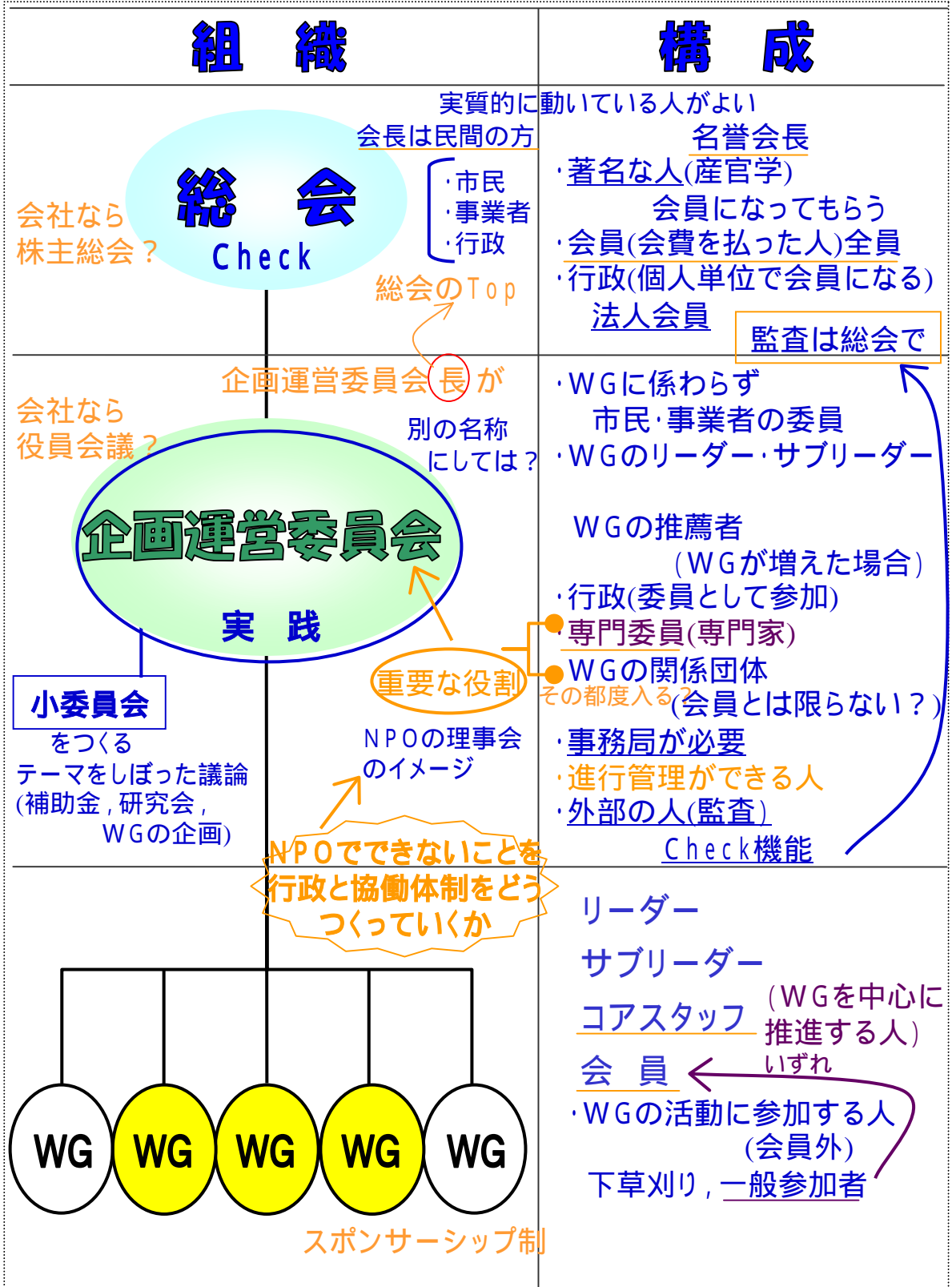
WG

4つの基本目標と比較しながら
足りない点などを検討していく

企画運営会議を定期的を開催する

環境フェアに市民サイドの企画をおり込む

cf 実行委員会 or 庁内準備会に入る



行うこと

- ・予算, 決算の承認(審議・決定)
- ・事業計画の承認報告
- ・会長・副会長の決定

企画会議が運営を行う

推薦

- ・WGの活動報告会 進行管理(Check機能)
- ・市民, 行政, 事業者の基本計画のやるべきことを振り分ける役割 委員長の仕事?
- ・活動のネットワーク会議 明確にする 会員(法人)としての
お金, 人材(デザイナーetc) 意味が出てくる
- ・スポンサーを見つける(cf経済団体, 業界団体) 予算, 決算の案をつくる
(財源)
- ・先進事例の見学会 研究委託をする(タダ?)
- ・年次報告書への意見, 提案 WGだけでできない事業 プロジェクト
- ・新規参加者の呼びかけ 活動実績の評価 チーム
- ・市民への公表 Check (講演)
- シンポ

- ・WGの活動計画(案)の作成
- ・企画運営委員会委員の推薦 WG自身もスポンサーを見つける必要
- ・活動報告書の作成
- ・具体的な活動の実践
- ・定期的な情報発信(WG単位) 自己完結しないように

アイディア

- ・環境パートナーシップはガラス張りの組織にしたい。
- ・動きやすい組織にしたい。
- ・著名な人が入っていると入りやすい
- ・機動力のある組織
- ・市長が入ったほうが良いのでは？
- (宣伝効果がある)

著名な方は名誉会長でよい
総会: 全体の審議決定

・企画運営委員に大半の機能が入れればCheckするだけ
・表向きの顔

市民が一番上に立ったほうが協働に

WGの孵化する前の卵をあたためる
(潜在的なWG)

事業の枠組みはここで行う。(決定機関) 新規WGの決定 OK

WGの見直しもある

各WGの活動を知ることができる仕掛け (重要) 次の活動が生まれる

仲間内で会議をしていると慣れあいになる? 偉い人が入ると硬くなる
自分が活動する人が企画運営委員会に入る

- ・環境リーダーの育成(予算によっては全体事業) ← **すでにいるリーダーをまだ利用しきれていない。**
- WGでもできる?
- 〃 のネットワーク 検討事項
- 実態把握

企画～活動の報告まで係るコアスタッフが必要

* (事務局が必要) 会員が増えると選任が必要

WGを動かす人をどう集めるか, 組織化するか。

財 源

会員になることのメリットは？

ごみの回収量コストを削減できると宣伝

環境に貢献できることが大切

活動には参加できないが、会費を払って援助したい
活動に参加したい

会員としてのステータスにつながる

具体的なビジョンとWGの位置付けを見せる
視覚化する

こういう方が多い

ロングスパンの活動を見せる

これまでの失敗例(具体的な活動がイメージできずに呼びかけていた)
この会議は活動を明確にした上でこの指とまれで集まった人が

環境のことはまだまだ官がやることと考えている人が多い

お金まで出してできるか？

・宇都宮市 補助金による支援を検討 全額ではなく一部負担になる

一定期間ごとに見直しがある

・事務局 庶務・会計・資料作成・連絡窓口
(環境企画課)

今後は協働？ 3,000円/1人は？

ゆくゆくは
財源の主

・助成金だけでやるのは不安定
付属的

会費は集める
会員を増やしていく
お金を集めるプロジェクト

・寄付金, 講演会の収入(有料)

・民間助成金 自前で商売する エコShopでプライベートカードを買ってもらう
これが目的化してしまう危惧がある

メリット

スタートの財源は官に頼らざるを得ない

CSR 企業のステータス

企業はすでにたくさんの会員になっている
(整理統合)
既存の整理

・この活動に出すとステータスになる
・常に活動しているところに寄付
・Uネットに広告を入れてもらう
ISOを取った企業を公開

NPO化を考えたも良い

・自主事業がやりやすい
・寄付を受けやすい

他の自治体で良い例は無いか